

Performing Arts Review (16)

レコード鑑賞「男と女-TWO HEARTS TWO VOICES」 稲垣潤一（2008/11/19 発売）

平成 22 年 1 月 17 日 中野希也

カラオケの洗礼を受けた世代にとって「デュエット」の言葉は感傷を伴う。
歌詞、メロディ、歌った場所と一緒に歌ったパートナーがセットになっている。
古くは

♣お前は死ぬほどつくしてくれた

♥あなたは誰より愛してくれた

或いは

♣だから♥だから

♣今夜は♥今夜は

♣♥離さない

また

♣帰したくない帰りにたくない ♥別れられない別れたくない

若い世代の唄では、なんと女性ボーカルが最初に来る。

♥恋人よ 今受け止めて あふれる思い あなたの両手で

♣恋人よ 今瞳を閉じて 高鳴る胸が 二人の言葉

当時はスナックを訪れる客がカップルか、一人かによって、同じ曲で三つのバージョンがあった。全くボーカルの無いもの、男声だけのもの、そして女声だけと。今はどうだろうか。

本 CD は「出会う二つの声、新しいデュエットのかたち。稲垣潤一が、日本を代表する女性シンガーたちとデュエットをカバー、楽曲も日本のポップス史上に燦然と輝く名曲ばかり」という。

中学で「旅愁」（♪更けゆく秋の夜 旅の空に）や「追憶」（♪星かげ やさしく またたく御空）を習いボーイソプラノで「アヴェマリア」を歌い、都会に来てからは、歌声喫茶（今はもう死語だろう。小さな歌詞ブックを買い、広い喫茶店でアコーディオンに合せ大勢で合唱する）の「こだま」（大阪）や「炎」（京都）で「山の娘ロザリア」（♪山の娘ロザリア いつも一人うたうよ）「黒い瞳の」（♪黒い瞳の若者が わたしの心を とりこにした）を級友と歌い、卒業後はTV番組「ザ・ベストテン」「夜のヒットスタジオ」でヒット曲に親しんだ後、カラオケを知った“遅れてやってきた青年”（大江健三郎）の私にとって、格好のアンソロジーというよりもテキストである。

Hello, my friend （1994 荒井由美、唄・作詞・作曲）

♪Hello, my friend 君に恋した夏があったね みじかくて 気まぐれな夏だった…

ユーミンの名前をはじめて聞いたのは「いちご白書をもう一度」（1975 バンバン、♪いつか君といった 映画がまたくる）の作者としてであった。

カバー集はともかく、オリジナルソングの数々に耳を傾けたのは、20 年位してからである。中森明菜（1965 生）が「私はユーミンさんのアルバムは全部持っています」と話し、今を時めく政治学者の姜尚中（1950）が次のように語っているのを聞くと、彼女の歌は間違いなく或る時代の原風景だったのだ。私はそれを、どうも見逃したようだ。

「資本主義は実に革命的で、主義主張を超えてすべてを変えてきた。ベルリンの壁が崩壊した理由は、経済的な貧しさではなく、西側のポピュラーカルチャーです。その中に音楽がある。僕も風呂で口ずさんでいたのは、“中央フリーウェイ”。無意識に慣れ親しむのは音の世界ですね。松任谷さんのCDを聴きながら、思想信条を持つとうと思った自分たちは何に負けたんだろうと考えたんです。学生時代、前衛芸術や左翼活動をやっていた友人が、就職が近づくと、髪を七三に分けて紺の背広を着て、企業戦士に変わっていった。実は一番一貫性があるのは松任谷さんじゃないかと。」

「自分は変わってなくても、時代が変わるから、意味付けが変わってくる。僕なんかガリベラル、左翼に見られる時代になったわけだから。もしかしたら、松任谷さんが一番時代にあらがっているのかもしれない。」

女声は高橋洋子。ユーミンのコンサートでバックコーラスをつとめていた。

悲しみがとまらない (1983 杏里、作詞・康 珍化、作曲・林 哲司)

♪I Can't Stop The Loneliness, こらえ切れず 悲しみがとまらない…

杏里 (48 歳) は、モデルを経て 78 年に「オリビアを聴きながら」(尾崎亜美 作詞作曲) でデビュー。

女声は小柳ゆき。「ガンクロ」に近いメイクでいわゆるコギャルとして 1999 年「あなたのキスを教えましょう」でデビュー。初めて聴いた曲は、ザ・ピーナッツの「恋のフーガ」(1967) のカバー。オリジナルとは正反対のソウルフルな声で歌う。人気があった頃、渋谷の TSUTAYA で彼女がコンサートで着用したミニドレスが飾られていた。

あなたに逢いたくて—Missing You (1996 松田聖子、唄・作詞・作曲)

♪二人の部屋の扉を閉めて 思い出たちに“さよなら”告げた…

1980 年、「裸足の季節」でデビュー、数々のヒット曲を放った聖子が、34 歳のときに自作自演、シングルではじめてのミリオンセラーを記録、最大のヒット曲となった。これを聴いたとき私の頭の中の“元祖アイドル”“ぶりっ子”のイメージは完全に消え去った。

数々のアイドル歌手に詞を提供した松本隆 (60 歳) は、一番オーラを放った歌手として聖子を挙げている。また、日本有数のカウンターテナー (38 歳) の米良直美は「看護師さんのお勧めで聞いた聖子さんの曲は、私の中の音楽性や感受性を育て世界を豊にしてくれました。多感な思春期を何の飾り気もない真っ白な壁に囲まれたベッドの上で寝たきりでいた私。目を閉じ彼女の曲を聞いていると、歌声と共に行ったことのないないマンハッタンやヨーロッパの教会に旅したりビーチパラソルの下で海を見つめていたりといった情景がどんどん浮かんでくる。その空想の中で私は彼女と一緒にいるような人と恋愛していました。でも私は寝たきり、何の青春もなかった。聖子さんの曲を聴いたことでたまった鬱憤を晴らされる気がしたんです。音楽にはそういう力があるんですね。そして私自身音楽への道を考えるようになりました。」

デュエットは松浦亜弥、86年生れ。「モーニング娘。」の妹分、ハロープロジェクトのメンバーとして01年「ドッキドキ! Love メール」でデビューした。彼女は「稲垣潤一さんからデュエットのお話をいただいたときは『えっ? なんで私なの?』と驚きましたが、母親がよくカラオケで歌っていた松田聖子さんの曲なので、オファーはうれしかったです。」と語り、一方稲垣は「PV撮影なので本来は口パクで歌えばいいのですが、松浦さんはちゃんと歌ってるんですよ。背中越しに歌と共に松浦さんの発する強いオーラが伝わってきて驚きました」と話している。



彼女はその類まれな歌唱力で新しい分野に取り組んでいる。

2002年、「さとうきび畑」(1969、寺島尚彦)をアルバムにとりいれた。作者は1930年生れ、東京藝大で作曲を学び、1967年に初めて沖縄を訪れ強い衝撃を受け1969年にこの曲を書いた。主人公は終戦の年に生まれたひとりの少女、沖縄での戦争で死んだ父親の顔を知らない、大きくなりひとりで父親を探しにさとうきび畑に行く、おとうさんは何故殺しあったか、何故殺されたのか、何故自決したのか、通り抜ける風の音を聞きながら静かに悲しみを訴える。“ざわわ ざわわ ざわわ”で始まり“夏の陽ざしの中で”終わる7行詩が11連続く9分近い曲。

“あの日鉄の雨に打たれ 父は死んでいった…
父の声をさがしながら たどる畑の道…
ざわわ ざわわ ざわわ この悲しみは消えない”

戦後半世紀以上経った時代に16歳の松浦亜弥が歌った。

2007年、「日本のポップスの父」服部良一生誕100周年を記念しトリビュートアルバムが作成され息子の服部克久、孫の服部隆之がプロデュースし昭和の名曲を、全く真っ白な状態でアーティストを選定しアレンジした。1939年に笠置シズ子が歌った「ラッパと娘」を日本を代表するトランペッター日野皓生とのコラボレーションで歌っている。

2008年には「スペシャルオリンピックス日本」の応援歌「きずな」を発表した。
♪ありがとう 生まれてきたこと ありがとう きずなに感謝・・・
大会を運営する法人の名誉会長細川元首相夫人が、親交の深い作詞家の湯川れい子さんに依頼。湯川さんは、05年の愛知万博閉幕歌「Friends Love Believing一ぬくもりをありがとうー」で共演した松浦さんが「応援歌をうたうのに適任」と声をかけた。「母が私を産んだ年にいま自分がいる。自分はまだ自分以外の人に時間を費やすということが想像できない。すごいなと尊敬します。」

2009年のTV「さだまさしショー」では「道化師のソネット」をオケのバックで歌った。

Piece of My Wish (1991 今井美樹、作詞・岩里祐穂、作曲・上田知華)

♪朝が来るまで 泣き続けた夜も 歩きだせる力に きっと出来る…

今井美樹は1963年生れ、モデル・女優を経て86年「黄昏のモノローグ」でデビュー。女声の辛島美登里は04年の「MOMOE TRIBUTE Thank You For・・・」で「プレイバック part2」を自ら編曲し歌っている。「イイ女とダメな女の混然を一人の女の人格に納めて歌いこなす百恵さん。ああ、これはかなわない、と素直に思いました。「バカにしないでよ」の啖呵がきれいなカラシマは、「ぼうやー」に命を込めて歌ったつもりですが・・・ポルトガルの酒場でファドを歌うさすらい人の心境でサウンドをイメージしました。この曲の新しい「女の切なさ」が引き出せたら幸いです。」

セカンド・ラヴ (1882 中森明菜、作詞・来生えつこ、作曲・来生たかお)

♪戀も二度目なら 少しは上手に 愛のメッセージ 伝えたい…

タイトルに“セカンド”とあるが「スローモーション」「少女A」に続く3曲目デュエットはYU-KI。1992年小室哲哉が結成したグループTRFのメインボーカル。明菜の曲は同時期のアイドルと違って、よくカバーされており、中でも「デザイアー情熱」(86年)は、歌巧者の高橋まりこ、内藤やす子によって89年にレコーディングされ、TVでは浜崎あゆみも歌った。

サイレント・イヴ (1990 辛島美登里、唄・作詞・作曲)

♪真っ白な粉雪 人は立ち止まり 心が求める場所を 思いだすの…

作者は61年生れ。名前に初めて会ったのは進学塾の広告記事で、一年浪人して高校に入学したとのこと。その後奈良女子大学に進み家政学部を卒業。87年に「Midnight Shout」でデビュー。洗練された歌詞に対する評価が非常に高く、俳人黛まどかは「辛島聴く」を冬の季語に指定した。

♪いくつも愛を 重ねても 引きよせても
なぜ 大事な夜にあなたはいないの
さようならを決めたことは けっしてあなたのためじゃない
不安に揺れるキャンドル 悲しかったから
“ともだち” っていうルールはとても難しいゲームね
もう二度と二人のことを邪魔したりしない♪



デュエットは大貫妙子(おおぬき たえこ)。1973年に山下達郎らとシュガーベイブを結成。解散後、シンガーソングライター、作詞家、作曲家として活躍。

あの日にかえりたい (1975 荒井由美、唄・作詞・作曲)

♪泣きながら ちぎった写真を 手のひらに つなげてみるの…

ユーミンは多摩美大出身。「曲が先にできます。曲を書く段階で映像は見えているんですが、みんなが分かる言葉に翻訳しなければならないので、そこで苦しみます。正しくて美しい表現にしようと思うと……。

女声ボーカルは露崎春女(つゆざき はるみ)。圧倒的な歌唱力と繊細な詞世界で人気を誇る。

人生の扉 (2007 竹内まりや、唄・作詞・作曲)

♪春がまた来るたび ひとつ年を重ね 目に映る景色も 少しずつ変わるよ…

慶應文学部を中退し音楽の世界に身を投じたまりや。家庭を優先するマイペースを保ちながら 数年ぶりに姿を現してもアーティストとしての煌きに翳りはない。年を重ねることと無縁に思えるまりやが、50歳を越えた春にふと感じた。「ああ、この桜をあと何回みるんだろうな」

♪満開の桜や色づく山の紅葉を
この先いったい何度見ることになるだろう…
alright to be 70, still good to be 80
I'll maybe live over 90”

日本の歌の詞で“80歳”“90歳”が出てきたことがあっただろうか。

大佛次郎(おさらぎ じろう 文化勲章受賞)52歳の作品「帰郷」の主人公の台詞は、「年をとったのだ、俺たち。桜がきれいに見えるようになったのだ。桜、桜と云うが、俗悪でつまらぬ花と思っていたがなあ。若い内は花を見ることを多分知らずにいるのだ」

ファン投票では、「駅」(♪見覚えのある レインコート)が最も人気があり、続いて「人生の扉」「元気を出して」の順になっているが「駅」を最初に歌ったのは彼女ではない。「86年に明菜さんのアルバム用の依頼が来た時、テーブルに彼女の写真を並べて、情景イメージがでてくるまで、ずっと見つめていました。せつない恋物語が似合う人だと結論を得た私が、めずらしくマイナーコードで一気に書き上げた曲を、のちに自分も歌い、今のようにならざる存在になっていくとは夢にも思いませんでした。明菜ちゃんからの依頼がなければ書けなかった歌です。」

米倉涼子は、“格好よい女性”として竹内まりやを挙げている。

「まりやさんのように、心身共にきれいで美しい人を私は見たことがない。ものすごく淡々としていながらも女としての気持ちを忘れていないし、いろんな悩みがありながらも、超えてやるんだという気概もある。」

ボーカルは白鳥英美子と娘の白鳥マイカ。白鳥は50年生、69年にポップデュオ「トワ・エ・モア」として「或る日突然」でデビュー、「虹と雪のバラード」「誰もいない海」などのヒット曲を出す。マイカはシンガー・ソングライターとして活躍中。

木綿のハンカチーフ (1975 大田裕美、作詞・松本隆、作曲・筒美京平)

♪恋人よ 僕は旅立つ 東へと向かう列車で…

本アルバム唯一参加したオリジナル歌手。55年生、74年に「雨だれ」でデビュー、その清潔さと可憐さが品を感じさせ人気を博した。

この曲は、都会に出た男性と故郷に残された女性との遠距離恋愛を対話形式で表現。

イメージが対照的な椎名林檎・草野マサムネがカバーしているのが面白い。

秋の気配 (1977 小田和正、唄・作詞・作曲)

♪あれがあなたの好きな場所 港が見下ろせる こだかい公園…

山本潤子は、49 生、69 年に「赤い鳥」を結成、「竹田の子守唄」を歌いヤマハコンテストでオフ・コースを抑えて優勝。小田和正はそのとき「“赤い鳥” はめちゃくちゃ上手かった。ああ、こんなに上手いバンドがいたんだ」と思った。また当時フォークを歌っていた泉谷しげるは「小田もいて拓郎もいるけど、やっぱり山本潤子さんがいるから俺らはできるんだよな」と言っていた。74 年に Hi-Fi Set を結成「卒業写真」(荒井由美)でデビュー、94 年に解散。独立して二枚目のアルバムで「アカシアの雨の止むとき」(60 年、西田佐知子)をカバーした。フォークシンガーが、30 年も前の歌謡曲をとりあげたのは初である。

ドラマティック・レイン (1982 稲垣潤一、作詞・秋元康、作曲・筒美京平)

♪今夜のおまえは ふいに 長い髪 ほどいて 光るアスファルト…)

女声ボーカルは中森明菜。ここ数年バラードに専念した彼女のリズムへの回帰を予兆させるに充分である。明菜のレパートリーを分類してみよう。

1 バラード

「スローモーション」「セカンド・ラブ」「Sand Beige ～砂漠へ」「Days」「初めて出逢った日のように」

2 ビート

「少女A」「1/2の神話」「禁区」「十戒—1984」「北ウィング」「飾りじゃないのよ涙は」「ミ・アモーレ」「Desire ～情熱」「TATOO」「Tango Noir」

3 エレジー 明菜がライブで歌っているとき泣いた曲である。

「駅」(86)「難破船」(87)「乱火」(89)「水に挿した花」(90)「忘れて・・・」(91)

明菜が 91 年 26 歳の夏、幕張で開催した「夢 Special Live '91」のラストに歌ったのが「忘れて・・・」(作詞 明菜)である。

♪今日はこれで さよならだけど
あとひとつだけ 聞いてほしい
色んな事 心配かけて
心から ゆるしてほしい
このステージに立つ昨日まで
夢の中では 不安ばかり
そんな私が今 浴びてるのは
あたたかな瞳・・・ 皆の笑顔



一番が終わり二番に入ったとき。“瞳にキラリとひかるものがあつた” “涙がひとしずく零れた” という状態ではなく、“声涙(せいのい)共に下つた” いや“涙滂沱(ぼうだ)として流れた。” 唇をかみしめ、客席からは「がんばって!」の声、声・・・

いま、あらためて歌詞カードをみると、なんと明菜自身がペンをとったものである。

デビュー後、瞬く間にトップアイドルの座を占め、86-87 には史上初のレコード大賞連続受賞を果たしポップス界の頂点に立った彼女に、一体なにがあつたのだろう。

その心の痛みは、いまは癒えたのであろうか。